



地域と生きる

おんが病院・おかがき病院だより

おんが病院の訪問診療の歩みとこれから

おんが病院では通院困難な方に対し 24 時間体制で訪問診療を行っています。例えば高血圧や糖尿病などの持病がある高齢の方で筋力の低下や認知症のために、一人で通院できない方やがんが進行し積極的な治療の適応とならず自宅で療養を希望される方、老衰で最期の時を自宅で静かに過ごしたい方などが訪問診療を利用することができます。また、退院後に通院できる体力が回復するまで一時的に利用することも可能です。

現在、おんが病院の訪問診療では採血やエコーなどの検査だけではなく、点滴、在宅酸素、人工呼吸器、中心静脈栄養、胃瘻管理、胸腹水穿刺などの治療の他に、褥瘡や外科的処置、輸血、抗癌剤治療も行っています。

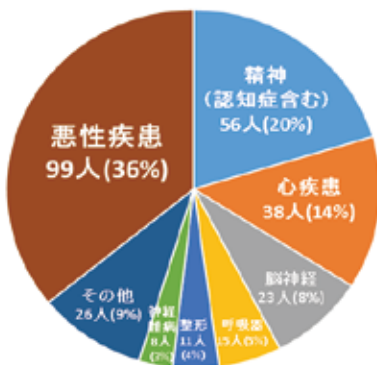
これまでおんが病院では 276 名の患者さんの訪問診療を行いました。105 人が亡くなり（自宅 42 人、施設 19 人、病院 44 人）、76 人が転院・施設入所となり、現在 90 人が訪問診療継続中です。病気の種類は様々で、がんの方が最も多くなっていますが、最近では認知症や心不全、呼吸不全の方が増えてきています。亡くなった 105 人中 78 人(74%)が悪性疾患（がん）の方で、自宅で最後を迎えたいという方が多く見られました。家族に囲まれて住み慣れた自宅や施設で最期の時を迎えることも、訪問診療の導入によってできるようになります。

おんが病院の訪問診療の特徴としては、救急病院なので 24 時間いつでも検査ができ、必要であれば入院もできるだけでなく、総合病院なので様々な専門医がいるため多様な疾患に対応できるということです。また、病院救急車を利用して自宅や施設から病院への搬送も行っています。おんが病院は医師会病院としてこれからも地域の先生方と協力して在宅医療を広めていきます。

訪問診療をご希望される方がおられましたらいつでもご連絡ください。ケアマネージャーさんがついておられる方はケアマネージャーさんに相談されてください。

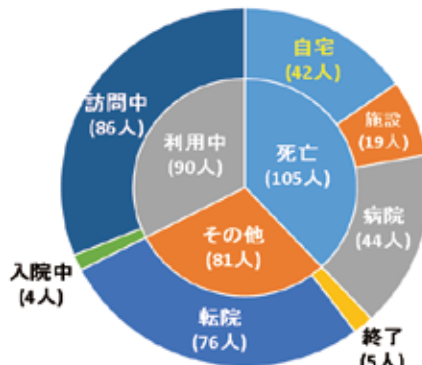
対象疾患

(2016.4~2019.10:276人)



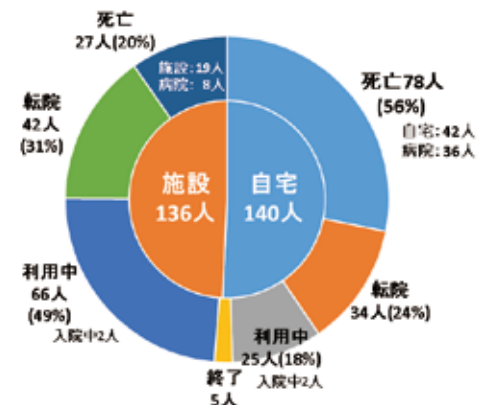
経過

(2016.4~2019.10:276人)



訪問場所

(2016.4~2019.10:276人)



訪問診療に関する連絡先は、訪問診療部まで ☎093-281-2810

担当医 末廣 剛敏、皆川 玲子

地域包括ケア病棟のリハビリ入院

遠賀中間医師会おかがき病院は、回復期病棟（地域包括ケア病棟、回復期リハビリ病棟）の病院として急性期病院からの転院に加え、地域からの直接入院を積極的に受け入れています。

その中でリハビリテーションの新しい取り組みとしてリハビリテーション入院を行っています。

① 痙縮（筋肉のつっぱり）の治療

脳卒中や脊髄損傷・頭部外傷後などにみられる「手足の筋肉のつっぱり（^{けいしゆく}痙縮）に対して、専門医による治療・リハビリテーションを行っています。

治療で期待できること

○日常生活動作が行いやすくなる

手足の筋肉がやわらかくなり動かしやすくなることで更衣・移乗・歩行などの日常生活動作が行いやすくなります。

○リハビリがしやすくなる

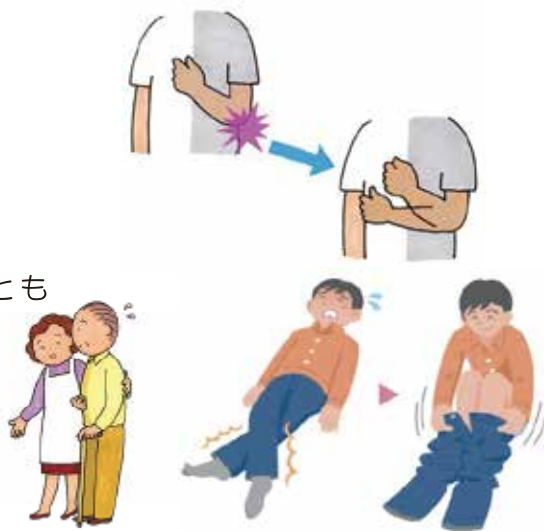
痙縮による同じ姿勢が続くと、関節の固まり（拘縮）や変形を起こしてしまうこともあります。治療により痙縮をやわらげることでリハビリテーションが行いやすくなり拘縮の予防効果も期待できます。

○痛みをやわらげる

痙縮による痛みを緩和する効果が期待できます。

○介護の軽減

手足のつっぱりがやわらぐことで、介護する方の負担が軽くなるのが期待できます。



【治療の流れ】

- ① 外来診察：リハビリ専門医による診察を行い、治療法の選択・初回治療日の予約をします。
- ② 初回治療日：検査や適応がある治療の選択、その後の入院リハビリなどの計画を行います。

【治療法の選択】

- 1) リハビリテーション
- 2) 内服治療
- 3) ボツリヌス療法
- 4) ITB（髄腔内バクロフェン）療法

② パーキンソン病のリハビリテーション

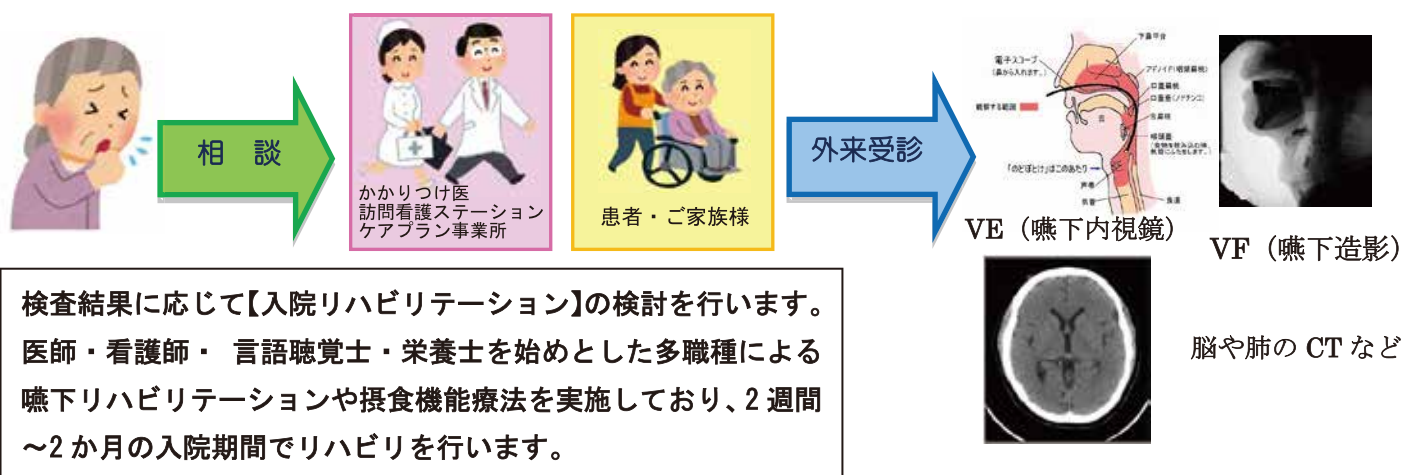
2019年9月より遠賀中間医師会おかがき病院に赴任しておりますリハビリテーション科白石純一郎です。前任は産業医科大学病院リハビリテーション医学講座であり、リハビリテーション専門医の資格を有しております。専門分野としては脳神経疾患、整形疾患が中心です。産業医科大学病院では、パーキンソン病に対する入院集中リハビリテーションを積極的に行ってまいりました。

内容としては、歩行が可能なパーキンソン病患者さんに対して理学療法、作業療法、言語療法を3-4週間集中的に行うことにより、身体機能の改善を促す治療方法です。現在までに、計100名以上の方に対して治療を行っております。現在までに入院集中リハビリテーションはすくみや歩行障害、バランス機能、ADLの改善に対して有効であることを報告しています。当院でも、パーキンソン病患者さんに対してのリハビリテーションの準備を行っており、積極的に対象者を増やしていこうと思っております。興味のある方は、当院外来白石純一郎までご連絡いただければ幸いです。紹介状は必須ではありません。話を聞いてみたい方の受診も受け入れておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

③ 嚥下障害の評価とリハビリテーション

高齢化社会のニーズにこたえ、「いつまでも口から食べられる」を目標に嚥下外来と嚥下リハビリテーションをセットにした診療を始めました。

外来受診から検査・嚥下リハビリテーションまでの流れ



おかがき病院(地域包括ケア病棟)

- ・嚥下リハビリテーション
- ・摂食機能療法

④ 短期集中リハビリテーション

- ・その他に、病院を退院したもののまだリハビリテーションが必要な方、退院して地域に戻った後、身体機能・認知機能が低下してきた方、など
- ・外来で診察・検査を行い入院リハビリテーションの適応があると診断された場合、最長2か月の入院期間でリハビリテーションを行うことが可能です。

完全予約制 お電話にてご予約下さい。

[093-282-1136 \(連携室\) 月～金 \(9:00～16:00\)](tel:093-282-1136)

新しく生まれ変わりました：ケアプランセンター

この度、おんが病院ケアプランセンターとおかがき病院ケアプランセンターが事業所統合し、令和元年9月より、新しい「おんが病院ケアプランセンター」として、7人体制でスタートしました。

ケアプランセンターの役割

高齢者の方々が住み慣れた地域でその方らしく日常生活を営むことができる様、ご本人の意向に沿った介護サービス計画を作成します。



おんが病院 ケアプランセンターの特徴

- 遠賀中間医師会が運営するケアプランセンターとして、医療機関及び介護事業者とのしっかりとした連携を行っています。
 - 在宅医の先生や訪問看護ステーションと連携し、ターミナル期の方や自宅での看取りも多く経験しています。
 - 看護師・理学療法士・社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士と多様な資格を有した人材を確保し、各々の専門性を活かしながら医療依存度の高いケースにも積極的に対応することで、事業所全体としてより質の高いケアマネジメントを目指しています。
 - 特定事業所加算Ⅱを算定していますので、24時間電話対応を行っています。
- 医師会のケアプランセンターとして、遠賀中間地域の先生方や地域の方々に、信頼して頂けるような、ケアプランセンターを目指して、今後も一同頑張っていきたいと思っております。



ご相談は、おんが病院 ケアプランセンターまで ☎093-281-3113

おんが病院 ケアプランセンター 管理者 小田原玲子

「家に帰りたい」を支えます：訪問看護ステーション

訪問看護は、病気や障がいを持った人が住み慣れた地域やご家庭でその人らしく療養生活を送れるように、看護師やリハビリスタッフがご利用者さまのご家庭に訪問し安心して在宅で生活できるようサポートするサービスです。

私たちは、退院後の継続的な病状管理などの看護から健康状態のチェックまで幅広く対応いたします。もう家には帰れないとあきらめずに、私たちと一緒に楽しい毎日を家で過ごしましょう。

私たちは、「家に帰りたい」「家に居たい」といった思いを全力で支援いたします。



ご相談は、おんが病院 訪問看護ステーションまで ☎093-281-3110

おんが病院 訪問看護ステーション 管理者 花田ゆか

発行日：令和元年 11 月吉日
発行：遠賀中間医師会おんが病院・おかがき病院
編集：おんが病院・おかがき病院広報委員会